


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 26 年 月 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程
氏名	河本悠吾

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
瀬戸臨海実験所、原子炉実験所、京都市動物園、生態学研究センター、霊長類研究所、日本モンキセンター
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
インターラボ
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 26 年 4 月 4 日 ~ 平成 26 年 4 月 9 日 ( 6 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回のインターラボは以下の日程で行われた。
4/4 ウェルカムレクチャー 4/5 瀬戸臨海実験所 4/6 原子炉実験所 (4/7 入学式) 4/8 京都市動物園、生態学研究センター 4/9 霊長類研究所、日本モンキーセンター
以下に各日程の概要と感想を述べる。
・瀬戸臨海実験所 ここではまず各教員の研究について話をいただいた後、施設内を見て回った。白浜水族館は、白浜周辺の生物のみを展示する、他にはない珍しいタイプの水族館であった。入ってすぐの第一水槽には大型の魚が多数展示されており、白浜周辺にも大型の魚類がいるのかと感心した。第二水槽はこの水族館の目玉で、無脊椎動物が多数展示されている。個人的にはフナムシが展示されていることに驚いた。海岸に行けばすぐに見られる生物であるが、展示の仕方が面白かったので、しばらく足を止めてどこにいるのかと探していた。

瀬戸臨海実験所前の海岸

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

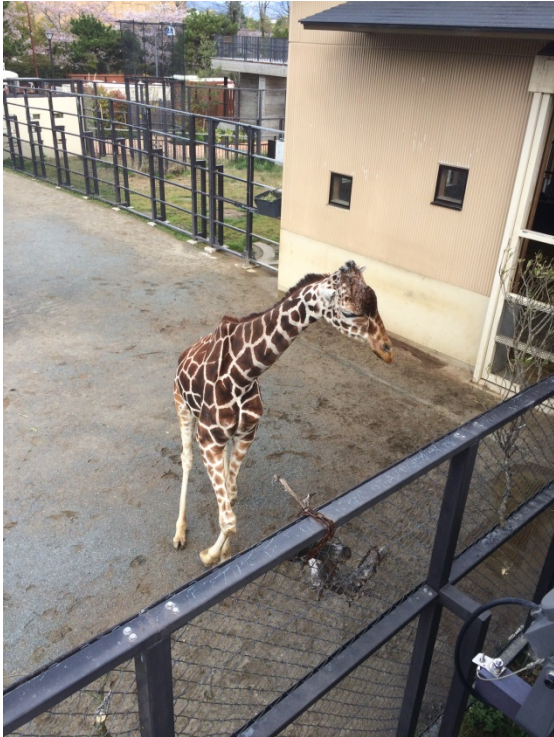
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

### ・原子炉実験所

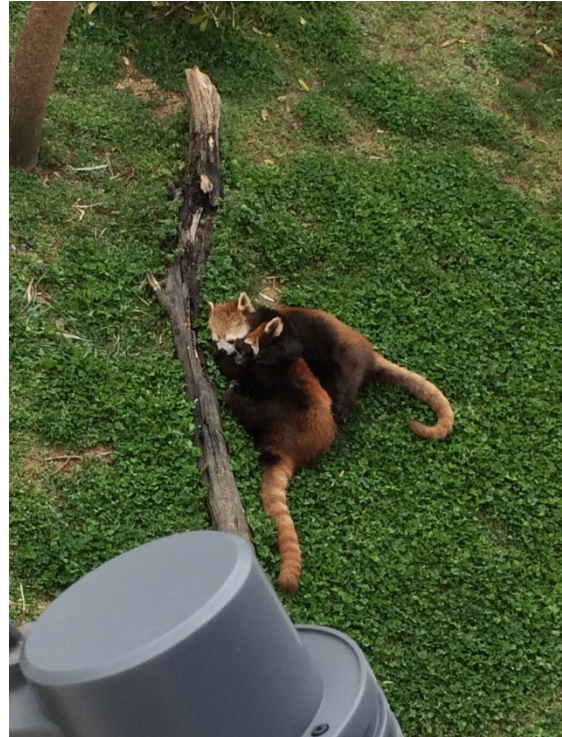
原子炉というと、主に発電を行っているイメージがあったが、ここでは発電ではなく様々な実験に用いられていた。中でも気になったのは、中性子によるがん治療である。あのような場所が医療の場として実際に使われているのは驚きだった。その後の見学では実際に原子炉を見学させていただいた。

### ・京都市動物園

京都市動物園には数か月前にも一度来たことがあったが、その時とは異なり様々な解説をしていただきながらの見学だった。そのため、各個体の関係性や、エンリッチメントについて、または裏話などを聞くことができ、非常に楽しかった。実際、動物が退屈しないように、また動物の生き生きとした姿をお客さんに見てもらえるように様々な工夫がされていたと思う。



キリンのこども



じゃれあうレッサーパンダ



食事中的ゴリラ



檻の外の草を食べるゾウ



## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



昼寝中のトラ

### ・生態学研究センター

生態学研究センターでは、各教員の研究内容について話をしていただいた後、圃場や CER の森、シンバイオトロンなどの見学を行った。中でも興味深かったのが同位体による生態学の研究で、安定同位体を調べることで動物のエサなどを知ることができるということだった。

### ・霊長類研究所

ニホンザルの放飼場や、チンパンジーの認知学習を実際に見るのは今回が初めてであった。特にチンパンジーの認知学習については、放飼場と学習室が自由に行き来でき、チンパンジーが自らの意志で学習を行うことができるようになっていた。実際に彼らの学習を見て、改めてチンパンジーのすごさを実感した。

### ・日本モンキーセンター

ここでは、標本の管理を行っている場所を案内していただいた。はく製やホルマリン漬けなど、様々な方法でサンプルが保存されていた。後々のことを考えてあらゆるサンプルが保存されており、とても重要なことであるが、スペース的にも作業的にも大変そうだと感じた。園内は、リスザルやワオキツネザル等が間近で見ることができるほか、クモザルはその特徴をお客さんによく知ってもらうためのエサやりを行っており、とても楽しめた。



ワオキツネザル

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書  
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS の支援により行われました。関係者の皆様に感謝申し上げます。